

(1) 新大阪ホテル全景。

新大阪ホテル建築工事概要

大阪市建築課長 富士岡重一

位置 大阪市北区中之島3丁目5番地

敷地面積 4,794平方メートル

建物延坪 21,501平方メートル

内訳

第1地階 2,88平方メートル

第2地階 1,184平方メートル

第1階 2,854平方メートル

第2階 2,453平方メートル

第3階 2,360平方メートル

第4階 2,360平方メートル

第5階 2,360平方メートル

第6階 1,734平方メートル

第7階 1,672平方メートル

第8階 1,430平方メートル

塔屋 255平方メートル

工期 起工 昭和6年10月1日

竣工 昭和10年1月10日

建物大きさ 間口 東西36米(柱心)

奥行 南北80米(柱心)

高さ ホテル側地盤より8階扶欄上端まで
29米00

同塔屋上端まで35米95



(8) 1 階 玄 關 廣 間。

會館側 6 階扶欄上端まで24米50
同塔屋上端まで34米225

設 計 大 要

間 取 全館を南北に二分して、南土佐堀川に面した部分をホテル、北堂島川に臨む部分を會館とし、ホテル側と會館側とは夫々入口を獨立して客の混雜を避く。

1. ホテル

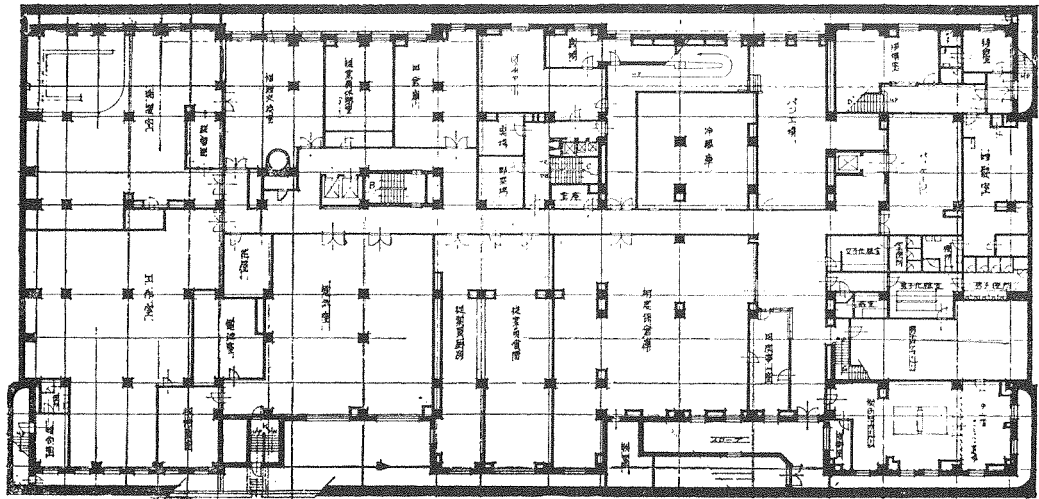
1 階玄関より帳場前廣間を過ぎて 2 階吹き抜きの大廣間、常食堂に通ずる。大廣間にはソーダファウンテン、常食堂には中 2 階にバンドボックスを設く。

2 階には廣間、貴賓室、會議室、喫茶室、讀書室、休憩室、婦人美容室等あり。貴賓室は寢室、次室、化粧室及浴室と從者寢室(浴室附)より成り、廣間を中心と

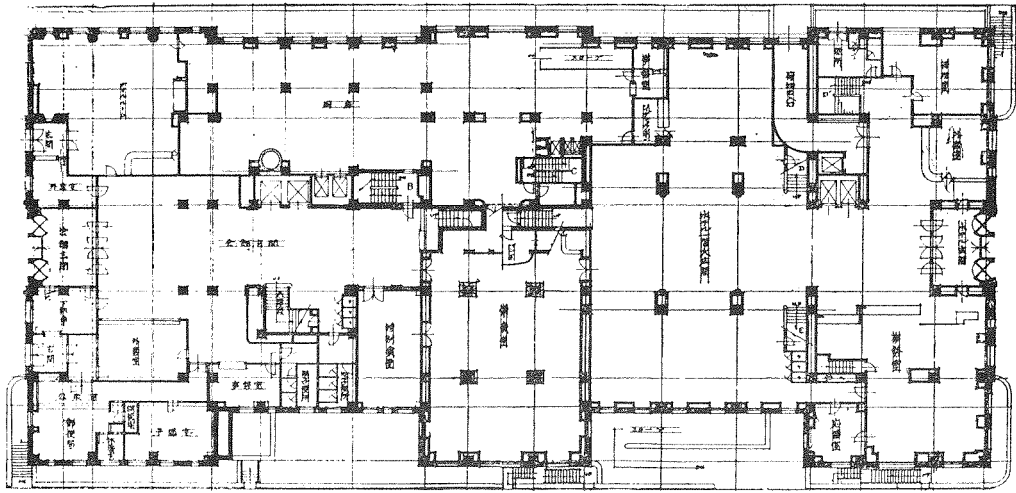
して東西 2 箇所に設けらる。

喫茶室、讀書室、休憩室は 1 階大廣間と 2 つの大階段にて聯絡せられ、何れも大ホテルとして恥しからぬ設備を有す。

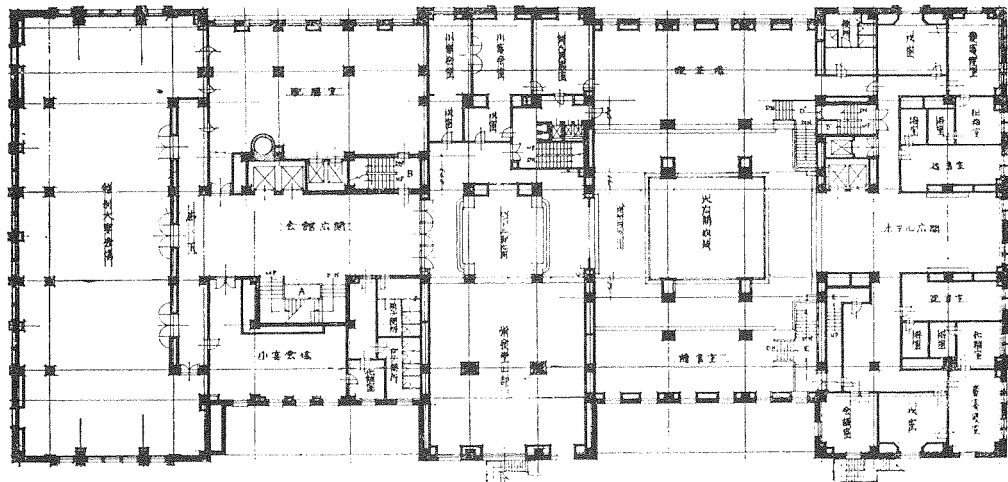
3 階以上 8 階迄は全部寢室にして、このホテルの特長として寢室は全て浴室を有し、又ホテルとして本邦最初のものである寢室の空氣調整装置(溫度濕度調整装置)を 1 部浴室に設備したことは夏季冬季共に旅客の安息所として最適のものたるを失はぬ。寢室は 3、4、5 階は各階 28 室、6、7、8 階は各階 39 室計 201 室、内日本間寢室 5、ベットを 2 つ有する寢室 60、シングルベットの寢室 136、それに 2 階貴賓寢室及從者寢室各 2 室を加へると 205 室となる。其他 3 階から 8 階迄の各階に設けられたバーラー及應接室は客の混雜



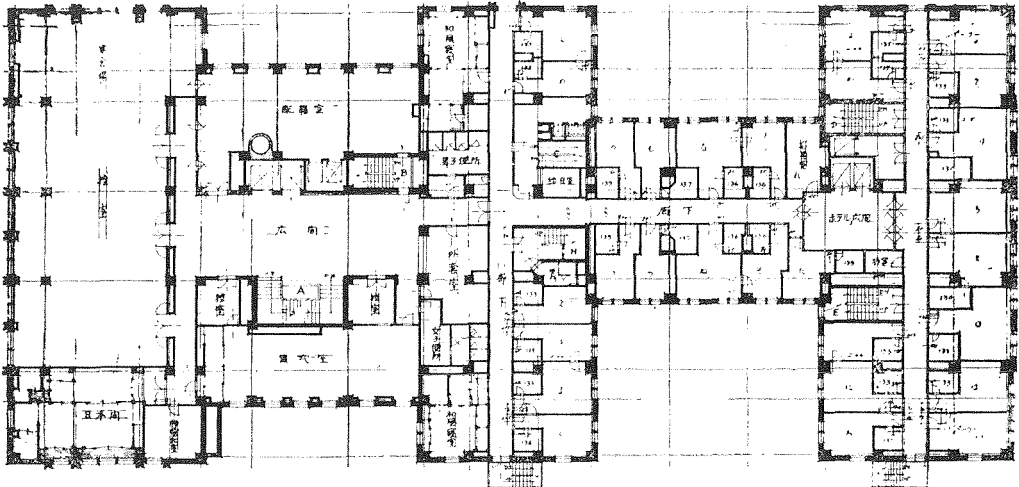
(2) 第一階平面圖。



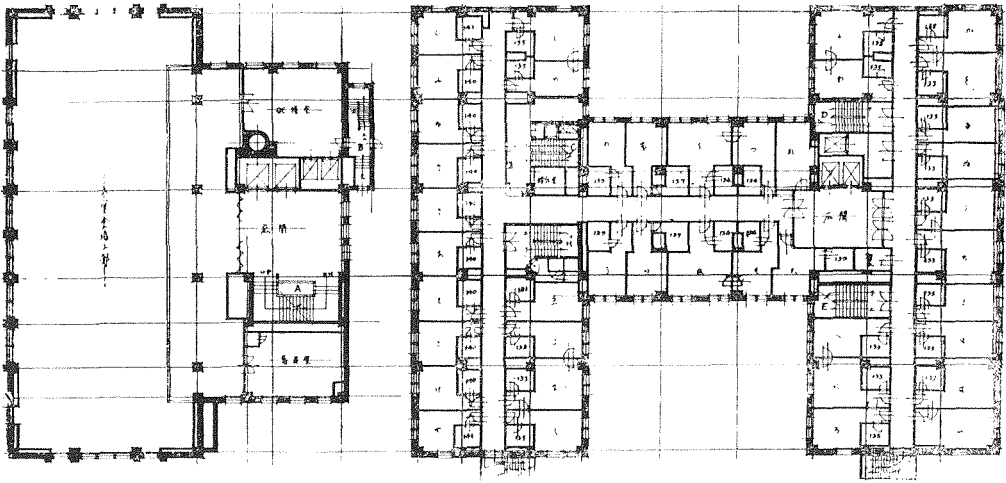
(3) 第一階平面圖。



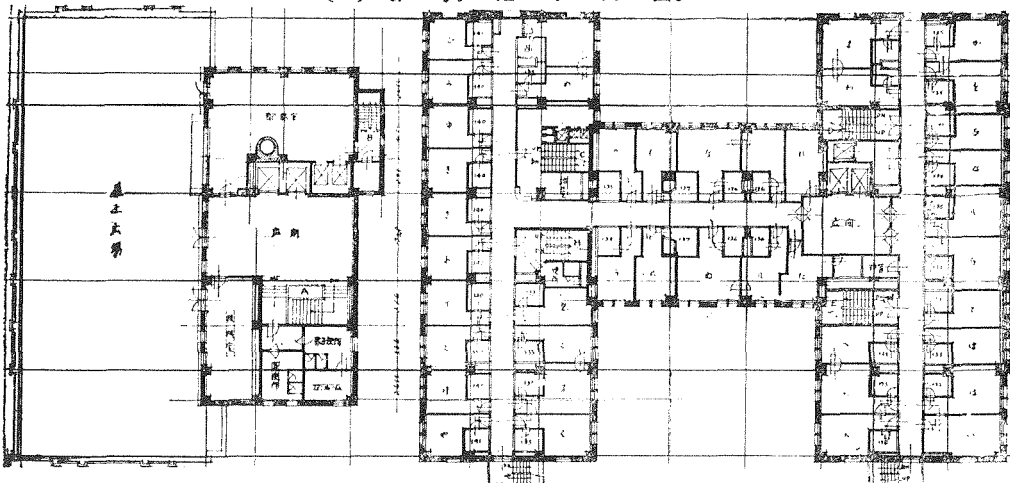
(4) 第二階平面圖。



(5) 第三階平面圖。



(6) 第六階平面圖。



(7) 第七階平面圖。



(9) グリル・ルーム。

する際は寢室として使用出来るからホテルの客室は總數 220 室と見做すことが出来る。

右の外ホテルの 3 階乃至 8 階まで各階には給仕室がある。

2. 會館

會館 1 階は、玄関を入ると先づ事務所前よりホテル常食堂に通ずる入口までの大廣間である。

廣間の兩側にグリルルーム、ツーリストビューロー、郵便局、特別食堂が設けらる。

ホテル側との通路としては常食堂のバンドボックスに通ずる階段を利用する。

2 階は約 500 人を容れ得る特別食堂及小宴会室と、結婚式の準備として婦人美容室の設けがある 3 階は全部結婚式用の部屋

で、儀式室、披露宴会場及新郎新婦の控室、婦人の休憩室として數寄屋風の日本間等がある、この日本間には化粧室、浴室、便所等の設備があり、結婚の準備室として萬遺憾なきを期して居る。

4 階、5 階は何れも約 500 人を容れ得る大宴会とその控室とより成る、特に 5 階の大宴会場は天井高約 6 米、控室及 6 階ギャラリーまで含めると 優に 1,000 人收容の大宴会場となし得る、6 階にはギャラリーのほかに寫眞室がある。

各室への料理サービスに必要な厨房、配膳室は宴会場側に 1 階より 7 階まで各階に配置し 1 階厨房と上階との連絡の爲に給仕用昇降機、階段、ダムウエーターがある。

最後に地階に就て述べると、第 1 地階に



(10) 大 食 堂。

は厨房に附属する冷蔵庫、倉庫、従業員用の各室、工作場、洗濯室、變電室等がある。

第2地階は諸設備の機械が集中し、送電用ダクト、電線管、蒸氣管、水管等が天井に重なり合ひ壯觀を呈して居る。音響及振動防止には建築的機械的にあらゆる手段を講じてある故に、これ等機械が全能力を發揮して1時に運轉しても上層各階には何等の影響をも及ぼさない。

様 式 水都の環境に順應したる近世式

外 装 1階窓下まで紅花崗岩小叩き仕上、上部はクリーム色釉薬掛スクラツチドマイル、窓廻り裝飾及扶欄笠石にはテラロツクを使用す、1階玄関廻りは紅花崗岩水磨きを張る。

内 装 各玄関床は紅花崗岩及松葉石水磨き

を混用す、1階ホテル廣間、會館廣間床は大理石、常食堂、グリルルーム、2階讀書室及3階小宴會場は寄木張、喫茶室、各宴會場及儀式室はオーク吳板張、ホテル2階ギャラリー及會館2階以上6階までの廣間はテラゾー仕上、同7階床は釉薬掛タイル張、3階以上ホテルロツビー及廊下はテラゾーの縁を取りゴムタイル敷、ホテル事務室及各客室、會館事務室、同6階ギャラリーはオーク・フロアリングブロックを敷き込む。

厨房及配膳室床はレッドタイル張、其他地階及塔屋各室床はモルタル仕上げとす。

1階ホテル廣間より2階ギャラリーに通ずる階段ホテル常食堂バンドボックスに通ずる階段、會館大階段は何れも蹴上踏面共縁大理石、中央部杉板張の上に絨氈を敷く、

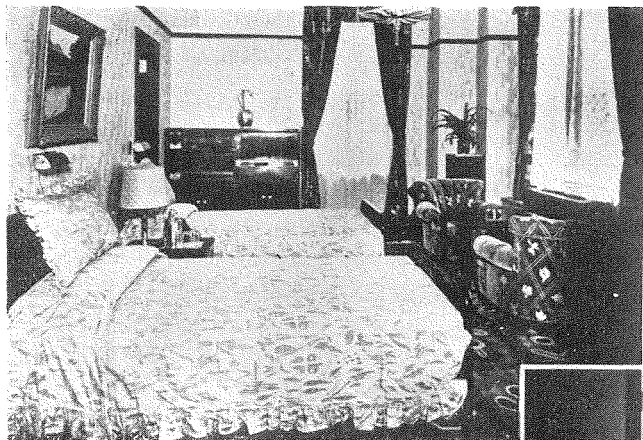


(11) 大 宴 會 場。

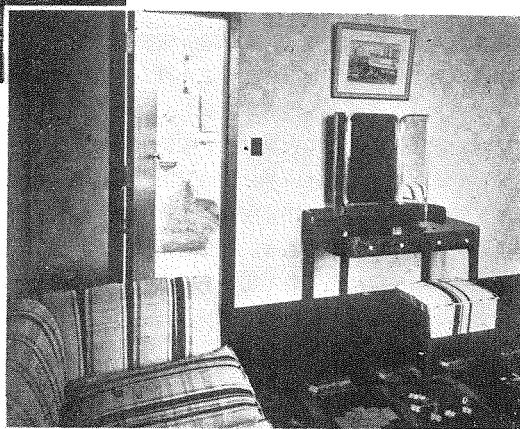
サービス用階段は蹴上踏面共テラゾー仕上、段鼻アランダムタイル張、他の階段は踏面は縁テラゾー中央部ゴムタイル張、真鍮製止金物を附し蹴上はテラゾー仕上げとす壁はホテル玄関、會館中央玄関、ホテル1階大廣間、會館1階廣間、同大階段室、貴賓浴室は大理石張、會館の左右玄関は釉薬掛タイル張、常食堂、會館2階及5階大宴會場壁は夫々オーク、鹽地及滿洲クルミのベニヤ板目板張、會館側グリルルーム、特別食堂、3階大宴會場は腰ドンゴロスペンキ塗仕上、貴賓寢室、同次室及化粧室、婦人美容室の控室、小宴會場は壁紙、儀式室は和風附け柱の間を紋紗張、ホテル客室は何れも蚊帳布張ペンキ仕上、厨房及各配膳室は腰レッドタイル及白色磁器タイル張、上部プラスチック、便所、化粧室は何

れもモザイツクタイル、サービス用階段及ホテル側各階段室は腰テラゾー上部プラスチック仕上、他の諸室は何れも壁、プラスチックの上ペンキ、コルク撒ペンキ仕上等とす、天井は何れもプラスチックの上、ペンキ、コルク撒ペンキ、水性ペンキ等で仕上ぐ。儀式室は臺繪ベニヤ板嵌込格天井、會館側大階段室最上階天井はステンドグラス張。ホテル3、4、5階の和風客室は何れも數寄屋風にして、疊敷、砂壁、竿縁天井、網代組天井等純和風の様式に依る。

屋 根 鐵筋コンクリート陸屋根とし總て防水層の上にシングルコンクリートを打ちモルタル仕上又はクリンカータイルを敷く。**建具及防火扉** 各階の外部に面する窓は總てスチールサツシュを用ひ南土佐堀川に面する各客室の窓全部及西側客室の窓一部は上



(12) 貴賓室 (寢室)



(13) 同次間。

下スチールサツツユを2重に建込む。
硝子は5階大宴會場のゴシック風窓には日
米板硝子を、其他には主として旭板硝子を
使用する。

ホテル正面玄関、會館正面玄関にはレボル
ピングドア各2箇所を附す。

其他の外壁各出入口、地階各室出入口、各
階段室出入口、厨房及各配膳室出入口、3階
以上ホテル會館境建具は何れも鉄扉とし、
硝子は玄関にはブレイトガラス、其他には
網入硝子を使用す。

各室出入口木造の扉は鹽地、オーク、チー
ク、滿洲クルミ、檜等のベニヤ板製とす
ホテル1階常食堂と厨房との境、會館7階
配膳室より屋上露臺への出入口にはスチー
ルシャッターを附す。

構造大要

基礎 柱下は生松丸太末口25種、長20米及
25米の杭を打ち、版厚45種1 繫梁の高1米
10のコンクリート造基礎とす。

主體 鐵骨鐵筋コンクリート耐震耐火構造
にして、鐵柱鐵梁は總て鐵筋コンクリート
にて被覆し、床版、外壁、小梁及間壁等全
て鐵筋コンクリート造、間壁の已むを得ざ
るものみ煉瓦、輕量煉瓦積とする。尙對
震壁として強大なる鐵筋コンクリート壁を
階段室其他の要所に配置す。

設備大要

1. 機械設備

空氣調製裝置 全自動式の國產キヤリヤ式を採用
し、廣間、食堂、宴會室、グリルルーム、貴賓室、
客室の1部に施工す。特に暑さと濕氣に苦しむ大
阪の地にあつては旅客の安息には何によりのもの
である。尙この冷房設備はホテル客室用としては
吾國に於ては目下のところ唯一のものである。

換気は地下室、料理場、洗濯場、浴室等に各系統を分ち完全に設計施工されてゐる。

汽 罐 池田式の水管式汽罐で、100封度の蒸氣を100封度より30封度、15封度、5封度と種々に減壓して、其の用途に適した壓力で使用して居る。又汽罐にシユーパーヒーターを付けたことも此の種汽罐としては異色である。燃料としての重油は岸壁に繋げる重油船より直接吸ひ上げる仕掛である。

2. 給水衛生設備

浴 室 總べての客室に浴室を附けたことも従來のホテル建築に比して思ひ切つた行方である。

消火設備 本設備はカソリン原動機、電動機併用の唧筒に依るハイドラントと、屋上水槽より配管せるスプリンクラーとを場所を考慮して合せ用ひ、建物の防火扉とともに火災に對して絶對的安全を期してゐる。アイスチーターは冷蔵設備と共に炭酸瓦斯壓縮機に依り、充分冷されて客室の1部に供給するようになってゐる。

洗濯工場 本工場は1つの工場として獨立しうる位の容量と設備を有し、防音と便利のために機械は各自の電動機を有する個別運轉式になつて居る。

3. 電 氣 設 備

第1地階の中央變電室と屋上に2ヶ所變電室を設け合計3ヶ所の變電室より配電してゐる。これは高壓配電に依る工費の低減と地下室の如き建物として効率高き場所に廣き場所を占めず比較的効用率の低き屋上に求めたのであるが、また故障を分散的にするに役立つ。中央變電室より遠方操作をなすものである。

電燈は蓄電池及び非常用發電機を外部よりの供給電力と併用して、ホテル營業に絶對禁物の停電を避けてゐる。電熱は料理場用熱源として瓦斯其の他では具合の悪い所に用ひてゐる。

ワンマンコントロール 電氣設備中最も力を用ひたのは中央變電室内に主配電盤と對立してある中央看視盤である。本盤は看視盤であると共に、遠方操作盤である。恰かも軍艦の司令塔の中にある操作盤の如きものである。總ての設備神經の中樞であり、然もワンマンコントロールである。其の中に納めて居るものは

1. 温度に関する標示

全館各室の温度又は湿度、冷蔵庫温水等の温度

2. 壓力に関するもの

汽罐の壓力及各使用目的に依り減壓されたる蒸汽の壓力、瓦斯、真空唧筒の真空度、壓縮空氣の壓力等

3. 水位に関するもの

各水槽の水位、排水ピットの水位

4. 記 録 計

受電電壓、瓦斯壓力、冷蔵庫の温度等

5. 流 量 計

汽罐の發生蒸氣と蒸汽の各使用場所に於ける流量、水、温水、瓦斯、電氣に對しては別の場所にある。

6. 遠方操作と故障標示

百臺近くの各電動機と換氣用モーターダンパー蒸汽のモーターバルブ又は各昇降機等

7. 内外火災報知機及看守の巡廻記録計

8. 各變電室母線の電流不平衡、蓄電池の過負荷

9. これは非常用の發電機等の起動停止等にして、之れに依り故障を豫知し直ちに應急の處置を取り得ると共に、料理係や宴會係等の要求に應じて送電、機械の運轉及停止、又はダンパーやバルブの遠方操作をなすものである。

コンフェレステレフォン 自動式電話に新考案を加へたる館内専用の會議電話で、各係りの打合せの迅速に依り連絡を緊密にするに役立つ。

オートコールアナンシエーター 従來の自動車呼出しは、玄關に居るスターターが大聲に呼出して居たものであるが、之れは電氣の仕掛けで標示呼出しをなすもので、前者に比し自働車廻しを迅速にすることが出来る。

デノーチングボード 本設備は客の在不在を電話交換手や帳場のクラークに一目で明瞭にする。

4. 料 理 場 設 備

本設備に於て特に注目すべき點は、總べての金物がステンレススチールやモーネルメタルにて作られ頗る衛生的な點である。此種の注意は歐洲のホテルやレストランにも極めて稀れであり米國一流の夫れに決して劣るものでない。

5. 昇 降 機

客用としては直流バリエブルホルテージの最新式エレベーターをホテル側、會館側共各2臺を設備し、尙ホテル側には荷物運搬用及料理運搬用昇降機夫々1臺、ダムウエーター2臺、會館側には配膳室に料理運搬用2臺を設置す。